

A God who is Able (全能なる神)

奨励	ケネス・メイナー [けねす・めいなー]
奨励者紹介	救世軍日本司令官大佐

自己紹介—京田辺と私—

こういうわけで、わたしは御父の前にひざまずいて祈ります。御父から、天と地にあるすべての家族がその名を与えられています。どうか、御父が、その豊かな栄光に従い、その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強めて、信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住まわせ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように。また、あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。

わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方に、教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

(エフェソの信徒への手紙 3章14—21節)

おはようございます。復活のキリストが臨在されているこの場所で、皆さまとこうしてお会いすることができまして本当に感謝をしております。すばらしい合唱をありがとうございます。私と妻は世界のいろいろなところに友人を与えられているのですが、南アメリカやカリブ諸国の友人たちが口を揃えて私に言うことが、「天国で語られている言語はスペイン語である」と。スペイン語は力強く情熱にあふれた言語だと言うのです。私は議論するつもりはないのですが、しかし日本に参りまして、より日本の方々の美しい歌声を聴きまして私と妻はその情熱について語りました。「天国で語られる言語がスペイン語であるとしても、天国で歌を歌う時に用いられる言語は日本語であるに違いなし」。日本の人々が日本語で、本当に深く心から歌う時に、それは全能の神への力強い賛美となるでしょう。

通訳者に感謝しております。そして救世軍京都小隊長が来てくださっていることに感謝します。

日本に来て

私と妻が日本に参りまして19カ月目となります。いくつかの発見をしております。私は日本に来るまでは自転車の文化はあまり意識したことがなかったのです。特に日本のお母さんに強い印象を抱きました。私は東京に住んでいるのですが、若いお母さんが自転車に乗っておりました。お子さんを後ろに乗せて、もう1人は前に乗せて、もう1人を背中に背負って、4人目を胸に抱いてバランスをとりながら、スーパーの袋も籠に入れて、自転車を漕いでいらっしゃいました。本当にすばらしいですね。もう一つ、そういう光景がありました。今朝その発見をしたのですが、人々は電車に乗るとすぐ眠るということです。これは何か才能があるのかなと思います。地下鉄の東高円寺駅から電車に乗ったのですが、私と一緒に1人の男性が乗られました。二つの席が空いておりました私ども2人ともそこへ座りました。その方に「おはようございます」と声をかけ終わらないうちに、「おはよう」くらいまで言ったところで、その方はもう寝ていました。そして私が肩をお貸ししたんですけど。

エフェソの町にて

復活のキリストの力が、この国に働いていくことを感じております。パウロがエフェソの教会に書いたエフェソの信徒への手紙を先ほどお読みいただきました。この古代の有数の都市のクリスチャンたちに向かってパウロは手紙を書いたわけですが、使徒言行録を見ますと、このエフェソに12人くらいのクリスチャンたちがいたと書かれていますが、そこで彼が語ったことは「あなた方は信じた時に聖霊を受けましたか」ということでした。そしてパウロがまだ彼らに向かって語っていくうちに彼らは聖霊の注ぎを受け、聖霊に満たされたということです。このエフェソは、大変富み栄えた町でした。また、すばらしい工芸の技術をもった職人たちがいる町でした。また、多くの学者が集っている、そういう古代の都市でもありました。世界の文明の中で初めて大規模な図書館をもった町が、このエフェソの町でした。富と繁栄と技術と。しかし、この古代の町エフェソは大いなる病をも抱えていたのです。この町にはギリシャの神々の1人、ダイアナに捧げられた神殿がありました。人間の心は腐敗するものですが、彼らはダイアナの神を礼拝する方法として神殿売春婦と交渉することを行ったのです。当時、エフェソは港町でした。今も港町ですけれども。今、考古学の発掘がエフェソで行われておりますが、現在のトルコ共和国にエフェソは位置しております。この富み栄え、繁栄した町の中であって、そのような人間性を墮落させるようなことが行われていました。その教会に対して、パウロはこの手紙を書いたのです。

エフェソの信徒への手紙3章14節ですが、「こういうわけで、わたしは御父の前にひざまずいて祈ります」と言っております。最初にエフェソに教会を開拓したパウロ、すばらしい教理に関する手紙を書いたパウロ、そして彼はまさに神の勇者でありましたが、そのパウロが謙遜に父なる神の前にひざまずいて祈るということです。

私たちはこの本当にすばらしいチャペルに集って礼拝しておりますが、この世界の山積する問題に比べて、ここに集っている私たちの人数はなんと少ないことかと思われるかもしれません。しかし私たちが謙遜に父なる神の前にひざまずいて祈る時、「神さま、あなたこそ創造者であり、天地万物すべてのものをお造りになった神です」と祈る時、神は私たちに新しい心を与えてくださるのです。それは神の心と一致した心であります。私たちの中に神さまの御力が働いてくださるので、その力というのは「神さま、私はあなたの御心を、あなたの御旨、あなたの求めにお従いいたします」、そう祈る時のみ、この力は私たちの内に働くのです。

神さまは私たちのために最善の完璧な御心をもっておられます。また神さまは皆さんお一人おひとりの人生にすばらしいご計画をもっておられます。私たちが謙遜にひざまずいて神を神と認める時に、そのすばらしい力が私たちの期待や想像をはるかに超えて働いてくださるのです。

わたしたちの内に働く力

人生の中には困難があります。エフェソのクリスチャンも問題に直面していました。エフェソの町はこんなに繁栄していたにもかかわらず、彼らは腐敗、墮落していた。しかしエフェソのクリスチャンたちは固く決心したのです。私たちが何者であるかは私たちを取り巻く環境によるのではない。私たちが何者であるか、それは神が「お前は何者である」とおっしゃってください。その言葉の内にあるのだ。エフェソのクリスチャンに聖霊が与えられたように、今の私たちにも聖霊が与えられるのです。それは私たちが、人が私に何と言うか、環境が私に何と言うか、それによって私が決められるのではなく、「神の御言葉によって私が何者であるかが決まる」ということによるのです。

神さまに対して今日、あなたはどんな願いをもっておられるのでしょうか。それは私には分かりませんが、「神さま、その聖霊の賜物を私に今日、ください」、そう願っている方もおられるかもしれません。「神さま、どうか、今、私が抱えているこの困難を、今年中に終わらせてください」と祈っている方もおられるかもしれません。

私が子どもだった時、生まれ育った故郷の町には、プロの野球チームがありました。父が私を初めて野球の試合を見に連れて行った時、私は6歳でした。それを今も覚えてます。大きなスタジアムに座ってコカ・コーラを飲みながら、自分の応援しているチームが勝てばいいなど思っていました。しかしその時、応援していたチームがぼろ負けをいたしました。その年のシーズンは負けが込み、決勝戦などには到底至らなかったのです。今年、福岡ソフトバンクホークスが優勝したんですかね。野球ファンはいらっしゃいますか。まだ優勝してないですか。横浜DeNAベイスターズと戦っているんじゃないかね。初めて見に行った野球の試合で私はお祈りを始めました。「神さま、あなたが本当に僕を愛しているのなら、どうかクリーブランド・インディアンスを勝たせてください」、そう祈ったのです。今に至るまで、その祈りを続けてお祈りして、叶えられたためしがないのですが、私たちの心の中にかかっている気がかりなことを神はご存知です。しかし創造者なる神は、もっと別のことを心にかけおられます。神さまは私たちに深く心を寄せおられます。その神さまの願いというのは「皆さんがキリストに結ばれて勇敢な信仰をもって立っていかれる」ということです。

20節にあるとおり、わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方、神さまは、神さまがあなたに願っておられる、その願いをあなたの人生において実現させることがおできになる方です。それはあなたが謙遜にひざまずいて祈ることから始まるのです。神さまを神さまとして認め続けましょう。天の父なる神があなたにはおられます。神はあなたを、救い、癒し、助けてくださるお方です。

天を羽ばたく信仰

聖書の中に三つのタイプの信仰が出てまいります。「救いを求める信仰」と「聖潔(きよめ)を求める信仰」、そして「超自然的な力を求める信仰」です。パウロは「エフェソのクリスチャンたちが、超自然的な力によるどころの信仰を授かるように」と祈りました。当時のエフェソの文化が、エフェソのクリスチャンたちを押し潰そうとするまでに圧迫していたにもかかわらず、超自然的な信仰によって彼らは立って、エフェソの町を変えていくことができたのです。

それは今日の私と皆さんにとっては、こういう意味です。地面をついばむような祈りをするのではなく、翼をもって天を羽ばたくような、そのような信仰をもってまいりましょう。「神さま、この問題を解決してください」と下を向いて祈るのではなく、「神さま、どうか、私の人生を通してあなたの御心が行われ、私がこの世界にあって神の光を輝かす灯火にならせてください」、そのような上を向く祈りをしましょう。

パウロがエフェソを訪れた時、12人のクリスチャンたちが小さな部屋に入って扉を閉じて窓を開けて下を向いて祈っていました。彼らは、いと高き神の娘であり息子であるクリスチャンたちでした。しかし彼らが聖霊を受けてバプテスマを受けた時に、彼らは神の栄光、神の誉れを表すインパクトのある人々に変えられていったのです。

今日、私たちが謙遜にひざまずいて祈りたいと思います。「神さま、あなたの御言葉をすべて受け取らせてください。あなたの御言葉を信じます。私の人生を用いて私の願い、期待をはるかに超えた大きなわざを行ってください、この世界にインパクトをもたらしてください」。そうお祈りをいたしましょう。

イエスさま、今日、あなたの御言葉の本当にすばらしい力に感謝をいたします。あなたの大いなる愛に感謝をいたします。聖霊なる神よ、神は、あなたのためにとどまってくださることを感謝いたします。ここに集われたお一人おひとりが、父なる神さまに、本当に祈り求めていくことができますように。神さまが私の人生に何を願っておられるか、それを追い求めていくことができますように。そして勇敢な信仰をもって一歩踏み出し、神さま、あなたの御心を喜びをもって受け取らせてください。どうか力を与えてください。どうか、あなたが強くしてください。勇気をお与えください。神にはおできになる、そのような神であることを信じさせてください。私たちの思いや願いをはるかに超えて私たちに与えることのできる神、イエスのお名前によってお祈りをいたします。アーメン。

今朝、最後に申し上げたいことは「あなたは神に何を祈り求めますか。あなたの人生で神が何をしてくださることを求めますか」です。神の誉れ、栄光のために。そして神はそれがおできになります。

2017年11月1日 同志社スピリット・ウィーク秋学期
今出川水曜チャペル・アワー「奨励」記録

この記録は、英語による奨励を救世軍山谷真少佐が通訳されたものです。